

事業連携協定に関する取組と今後の展望について

古野電気株式会社



FURUNO

古野電気株式会社の取組

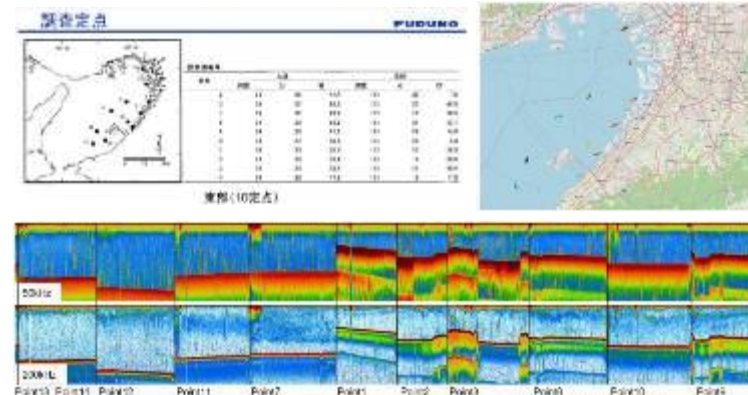
当社は、**2050年の未来社会 "Ocean5.0"** を創造いたしました。その社会では、海の恩恵をすべての生きるものが受けることができるとともに、海から恩恵をもらうだけでなく海へ恩返りする「海と共存共栄する時代」がくると考えています。

未来社会に向け「環境」「災害」「流通」など海を取り巻く重要テーマを設定し、当社が目指すこと、共創パートナーの皆さまと共に実現したいことを掲げています。



当社は海に育てられた企業として、“海洋DX”の推進で海の全ての情報の見える化に挑戦しており、経済発展と社会課題解決を両立しながらサステナブルな未来の実現を目指しています。

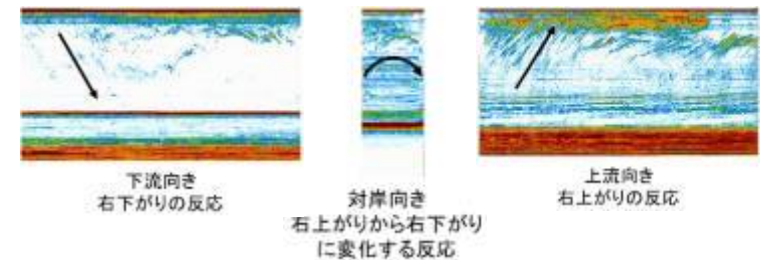
- 海底堆積ごみ探知に向けた基礎研究として大阪府立環境農林水産総合研究所の生物調査時に音響データを取得し、堆積ごみ量との関係性を調査



大阪湾実験



- 水中のごみ探知に向けた基礎研究として寝屋川で音響データを取得し、水中を流れる物標の探知の可能性を確認

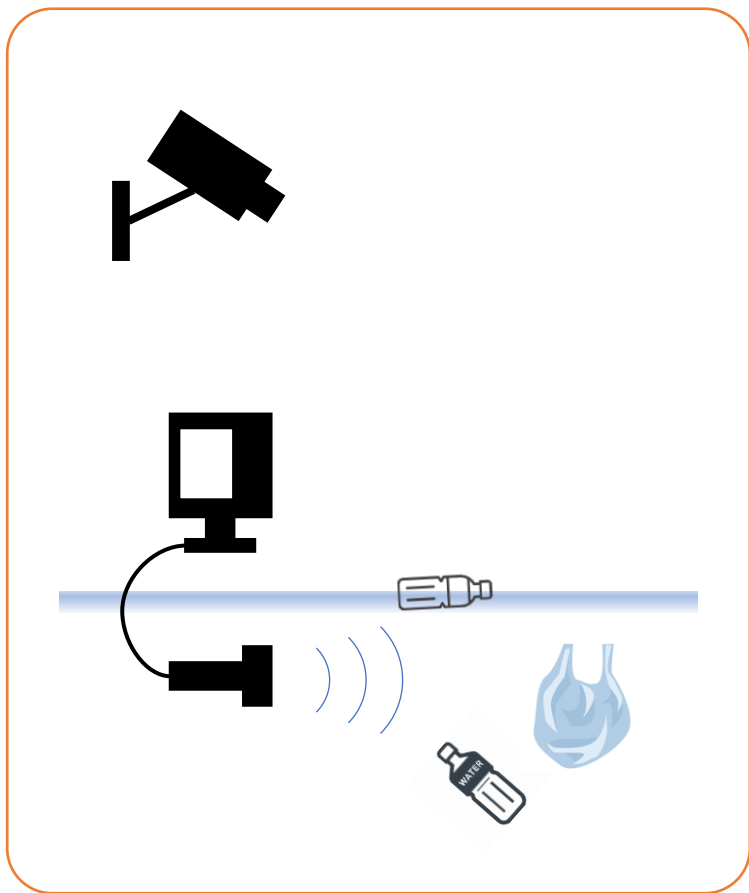


寝屋川実験

大阪府・大阪大学大学院工学研究科・古野電気株式会社による連携協定に基づく取組について

取組内容・役割分担

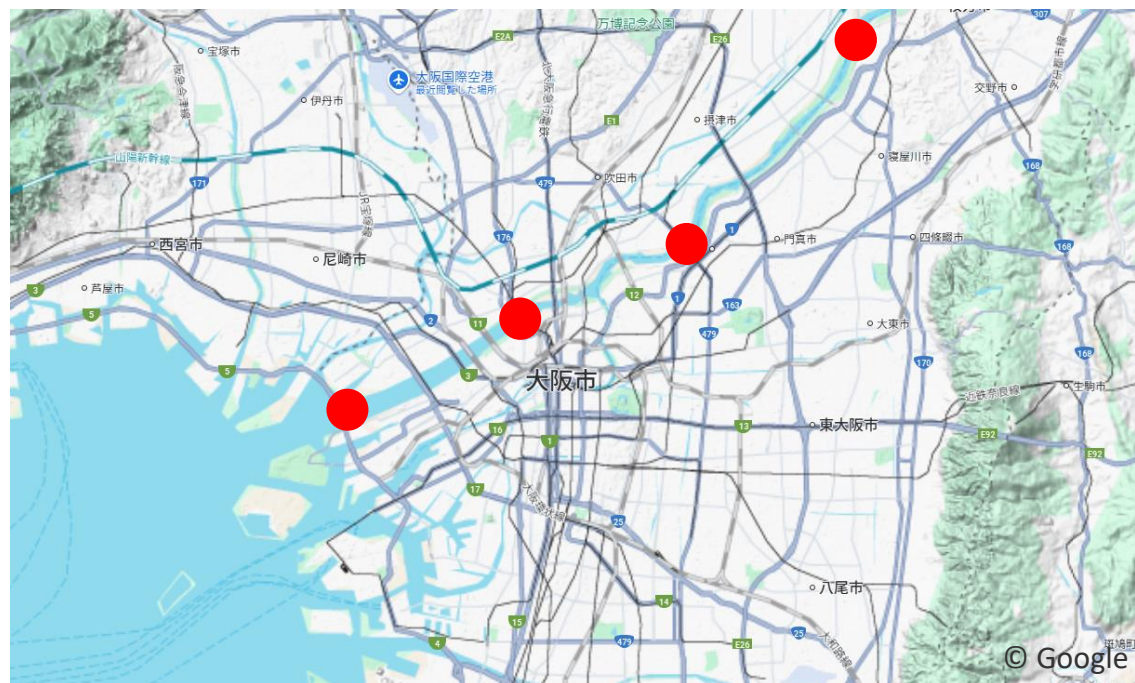
具体的な取組内容（案）	役割分担（案）		
	古野電気株式会社	大阪大学大学院工学研究科	大阪府
1. 河川から大阪湾に流入するプラスチックごみの推計精度の向上に向けた観測技術の開発			
流域人口が多く、かつこれまでに調査ができていない淀川・大和川を主要な観測ターゲットとして、河川から流出するごみ量の新しい観測技術を開発	河川水中を經由して流出するごみ観測技術の開発	河川漂流ごみの連続観測システムの高度化と、大河川や河口域への拡張	- 課題整理 - フィールド調整 - 研究テーマ選定に関する支援
河川からの流出ごみの推計精度の向上につながる観測システム手法の開発や、開発した観測システムを複数河川に展開し、多点同時観測ネットワークの構築を検討	- 流出ごみ量の多点観測網実現に向けた技術開発 - 大阪湾ごみ分布の見える化に向けた技術開発	- プラごみ流出量の高精度推計手法の開発 - 大阪湾流域圏における海陸プラごみ動態の解明	- 府内の海洋プラスチックごみ量の推計方法の精緻化の検討 - おおさか海ごみゼロプランへの反映
2. 事業連携に基づく調査研究の結果等の情報発信			
1. の調査研究の成果について、広域的な連携を推進するため、対外的な情報発信を推進する。	- Web/SNSによる情報発信 - プレスリリース - 学会発表、等	- 学術論文や学会講演会での研究成果発表 - 大学HP等での情報発信	プレスリリース・HP等での情報発信
3. 海洋プラスチック問題に関する地域住民への啓発			
住民ひとり一人の行動変容を促すため、イベントや環境教育の中で海洋プラスチック問題の啓発を推進する。	「海を未来にプロジェクト」による啓発活動 - 学校連携などの教育活動	- 市民参加型フォーラム等でのアウトリーチ - 高大連携を通じた次世代への教育・啓発	- 大阪府作成の環境学習ツールの提供 - 大阪府主催イベント等での情報発信



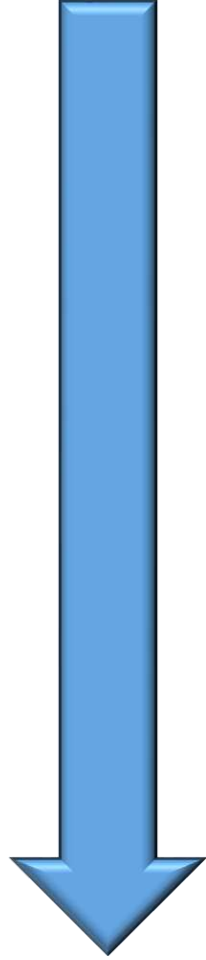
水面・水中観測センサー



複数の観測センサーで河川断面を観測



複数の観測センサーで河川流域を観測



- ・大阪湾に流入する複数河川からのごみ流入モニタリング
- ・大阪湾に流入したごみの漂流・沈下シミュレーション
- ・漂着・堆積場所におけるごみの現場調査（シミュレーション結果の評価）

ごみ分布状況可視化技術開発

- ・流入防止策
- ・ごみ回収
- ・住民への啓発

などに向けた「ごみ情報」の公開

大阪湾の海ごみ対策の効果検証